

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえ、事業所、個人の目標を立てている。朝礼時に法人理念・事業所の目標を唱和し実践につなげている。	法人の理念「共に歩む」は紀元前1世紀に編まれた中国の司馬遷の「史記」にある李広伝記の最後の一文「桃李不言下自成蹊」を基にしたもので、その一文を習字の達筆な利用者が利用前に偶然書かれた書を自宅から持込みホーム玄関に掲げ、来訪される方々や職員も目にし、心を新たにしている。長谷川式スケール(簡易知能検査)の活用により利用者の状態を把握し、コンセプトの「笑顔・言葉・食・住まい」に沿ったサービス提供に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや学校、保育園の行事に行ける方は参加している。また近所の方が野菜、果物、花を届けてくれたりと交流が広がりにつつある。中庭の雑草を心配して、近所の住民が草刈に来てくださることもあった。	二つの地区にまたがる場所にホームがあるため、地域の行事の声掛けを双方からいただいている。その一つ南小河内区のお祭り「おさんやり」は江戸時代から伝承されてきた厄除の民俗行事で夕方4時半から始まり利用者も見物に出かけている。また、職場体験の高校生や多くのボランティアの受け入れも行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場の協力を得て、キャラバンメイトの職員が、運営推進会議で会議メンバーである区長、民生委員の方々に認知症サポーター研修を開催。一家に一人は認知症サポーターのいる地域を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からの要望またグループホームからのお願いを伝えている。また地域に開かれたグループホーム作りのアドバイスを町から受けている。	運営推進会議には家族代表、2地区の区長、民生委員、町関係者等が出席し、職員との双方行的な会議が開催され、運営状況の報告やホームの予定などを説明し、意見や助言をいただいている。ホームへの道路沿いに町の保育園が建設されており、完成の折には車の速度・運行には十分気をつけてほしいとの地区区長からの申し入れなどもいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入・退居の状態や待機者、入居希望等、連絡を取り合うよう心掛けている。町からの要請があれば、家族の会への参加もしている。	介護認定の更新調査はホームで行なわれる場合が多く、半数の家族の方が立会いをされ、町派遣の認定調査員に情報を提供している。地域包括支援センターからの声掛けで認知症の家族の会へ参加することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は将来的にやめることを目標にしているが、離設事故があり現時点では施錠している。離設する前に御利用者様のサインに気づけるような職員を目指している。	離設傾向にある利用者の方が若干名いるが所在確認は一時間毎に行ない、職員は利用者の心身状況等を把握し、帰宅願望が強く出てきそうになると、散歩や声掛けで対応している。職員は身体拘束をしないケアについての研修等で理解を深め、実践している。	

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開き、職員間で共有している。また入浴時は全身の観察を行い、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報を収集し、成年後見人制度を理解するよう、話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明を行い、疑問がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置や家族会運営推進会議の機会をとらえて意見を出して頂いている。面会時等、御家族様と話しをする時間をできるだけ作る努力をしている。	家族会は夏祭りや行事に合わせて定期的開催している。昨春には主治医の先生のお別れ会を兼ねて行い、通常も職員と交流する中で意見や要望をお聞きしている。家族の来訪は週1回の方から月1回程度ホームを訪れる遠方の方などと様々であるが、その折にもコミュニケーションを図り、意見等をお聞きし、日頃の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議やカンファレンス、毎日の申し送り、振り返りの時間を活用して意見交換し、改善に反映している。	法人として「目標管理制度」を導入しており、目標見える化し、管理者は半期に一度職員と面談し要望や意見をホームの運営に反映している。職員会議は毎月第2水曜日の午前9:00から開催している。会議のテーマは事前に職員に告知し、意見交換を行なっている。欠席者には連絡ノートで周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見を聞き、積極的に取り入れている。自発的に取り組む姿勢を大切に意欲向上に努めている。職員の雇用形態の見直しを行い、処遇改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、職員全員が参加できるように取り組んでいる。中途採用者が多い中、法人理念や基本的事項を学ぶ研修には全員が参加できるように調整している。法人内研修は会場が近くなり参加しやすくなった。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修や交流会の案内を周知し、参加を呼びかけている。急な見学等にも対応して、率直な意見を聞くように心掛けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様からの希望、御家族様からの情報により、要望に添えるように努めている。入所の段階で、御本人様・御家族様が望む十分な面談時間を取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様からの情報により、要望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様の意向を重視してケアプランを作成し、統一した介護を行っている。必要に応じて他のサービスの紹介、利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の過ごしてきた人生の歴史を理解し、暮らしを共にする者として、介護する・される関係を越えたひとつの家族になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様だから出来る事、施設だから出来る事を共有し、共に御本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会はもちろんハガキのやり取りを支援している。昔の同僚、地域の役員をした時の友人等の面会も増えている。御利用者様の自宅近辺までドライブにも出かけている。	学生時代の同級生や地域で暮らす馴染みの知人の訪問を受ける方がいる。家族と共に日帰りで新年会に出かけたり、馴染のめがね屋さんに出かけたりと利用者の今までの暮らしを継続できるように職員は努めている。	

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の人間関係の把握に努め、孤立している方がないように働きかけている。職員は中間的な立場に立ち、話の橋渡し役を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望される御利用者様や御家族様には相談や支援をおこなうように努めている。 入院された方には状況を判断し、お見舞い訪問を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向をしっかり受け止める様にカンファレンスを行っている。また日々の変化を見逃さないように気づきを共有している。介護が必要になる前の情報収集を行い、意思が伝えられなくなっても思いを汲み取れるように努めている。	職員は利用者の要望や意見を汲み取っている。日々の会話から気づいた利用前の生活史や日々のケアの中で得られた馴染の場所・馴染の品について職員間で共有し一人ひとりの支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様、御家族様から直接情報を得て、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの他に、必要に応じてカンファレンスを開き、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様からの意向、意見をお聞きしている。また医師から意見を得たりもする。それらを基にカンファレンスで意見を出し合い御本人様に適した計画を立てている。	介護計画は家族からの意見や要望を取り入れ、計画作成担当者と管理者で立っている。3ヶ月毎に見直しを行ない、利用者に状態変化が見られたときには医師や看護師からの助言をいただき現状に即した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノートに個別で記録したり、口頭でも伝達し、全職員が共有している。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応し、できる限りの柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、町の相談員の訪問を受け、情報交換や協力を行っている。近隣住民やボランティア様の訪問も増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回往診日を設けている。また必要な場合はすぐ往診に来てくれる体制となっている。電話での相談にものってもらっている。御家族様の協力を得て、入所前のかかりつけ医への受診を継続されている方もいる。	町運営の診療所の医師や看護師との連携も昼夜を問わず行なわれおり、医療支援体制はきめ細かく対応できるようになっている。隣接老健の医師や看護師との連携も密にとられており、看護師が週1回ホームを訪れ健康チェックや相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に気づいた点を相談し、アドバイスを受けながら健康管理を行っている。夜間、休日も電話での相談、必要に応じて駆けつけてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員も付き添い、医療機関に情報提供を行っている。退院前のカンファレンスにも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様、御家族様の意向を尊重し、医師や看護師との相談を重ね方針を決めている。また最期は御家族様にも付き添って頂けるように対応している。職員間でも話し合い、統一したケアに努めている。	ホーム開設から8年目を迎えており、多くの方の看取り経験がある。職員は隣接老健の看護師のOJTで教育を受けたり相談しながら対応してきた。今まで他の利用者にも動揺や混乱はなかったという。利用契約時には家族に重度化した場合等について十分な説明がされており、看取りなどの現実にも遭遇した場合にも医師との連携をとり、状態の変化に合わせ意志を確認しながら見極めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師からその都度必要な応急手当を指導してもらっている。また、職員個々に緊急時の対応講習に参加して、知識・技術を身に付けている。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災委員会を中心に定期的を実施している。年2回防災訓練。他地震対応訓練、災害用伝言ダイヤル体験訓練、停電時の対応等、様々な災害について勉強の場を設けている。非常食も完備している。	ホームには防災委員会があり委員が中心になり防災訓練等を行っている。秋口には地震想定訓練を実施し、初冬には夜間想定避難訓練とミニ訓練も行った。何れの訓練にも利用者が参加し、日頃からの防災意識を高めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応を行っている。また接遇委員による自己チェックを行い、日々自分自身の対応を見直し、改善するように努力している。	個人情報保護については運営規程・入居契約書に記載されている。利用者の人格尊重に関しても勉強会をホームで行なっている。職員は「接遇チェック表」を用い、年2回の自己チェックを言葉遣いやマナーなどを振り返っている。プライドの強い利用者もいるが、職員は誇りや思いを受けとめ、日頃の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様が希望等を訴えやすいようなかわりを持つように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでの生活を優先するように心掛けている。できる限り個別支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しめるよう支援している。身だしなみ等にもさりげない声かけにて対応している。定期的に美容師によるカットの日を設けている。御家族様の協力を得ながら、行きつけの理美容室にも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえから後片付けまで、一人ひとりの得意な事、出来る事をして頂けるように心掛けている。食事作りを日課にしている御利用者様もいる。日々の関わりの中から、食べたい物や好物を聞き取るようにしている。	殆どの利用者は一口大の大きさで対応できるが、刻みやミキサー食の方もいる。また、箸やスプーンなどの食器を工夫することにより、自力で食べることができている。職員は利用者と同じテーブルで一緒に食べ、料理への反応や意見を聞きながら献立の見直しに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせている。医師や看護師からもアドバイスをもらいながら、それぞれに応じた対応となっている。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎日の生活の中で一連の流れとして、楽しみながら行っている。一人ひとりに適した用具、回数を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによりトイレ誘導を行っている。また「訴え」の行動を見逃さないようにして、御本人様の意思を尊重した支援ができるよう努めている。	布パンツやリハパンツ、パット使用など多様であるが、出来るだけ布パンツを使用するように目標を立てている。職員は排泄についての一人ひとりのパターンを把握しており、声掛けや誘導を行っている。誘導や見守りの際、利用者の自尊心にさりげなく配慮した支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動にて予防に取り組んでいる。薬に頼らなくても良いように、職員も日々勉強している。寒天を使用したゼリーの活用、一人ひとりに合った下剤の検討を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週6日を入浴日として、この間に原則2回入浴して頂くよう支援している。入浴方法も個人個人により工夫して満足につながるように努力している。	職員二人で入浴介助する利用者の方が増えている。入浴の補助用具を使い利用者に無理なく、気持ちよく入浴できるよう支援方法の工夫もされている。入浴を拒まれる利用者には無理強いすることなく自然な入浴へとつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安眠できるように環境を整えたり、安心できるような対応を心掛けている。御本人様の希望や体調に合わせて午睡を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については常に確認し理解している。薬の変更があった場合はスタッフ全員に速やかに周知徹底している。また日常の変化を医師や看護師に伝え服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御自由に過ごして頂けるように見守りながら、趣味をお持ちの方には役割を持って頂いている。また得意なことを継続して頂けるような支援を心掛けている。書道、生け花、歌、踊り、料理、掃除等。		

グループホームわかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出行事等、出来る限り希望に沿うようにしている。また御家族様の協力を得ながら、一時帰宅や外泊等楽しまれている。帰宅できない方にもドライブ等で季節の移り変わりを感じて頂けるよう外出支援している。	季節に合わせ、お花見や紅葉狩りに出かけている。その機会を捉え、自宅近辺を通るなどの配慮がされ、利用者の気持ちに沿った支援に努めている。また、利用者の身体低下により外出する時には車椅子使用の方が半数以上になってきているが、職員は利用者の思いを汲み取り地域の行事等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様の状態により施設側での管理となっているが、希望時には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと、御利用者様の要望に対応している。御家族様からの電話をつなぎ、聞き取りやすいように間に入る等の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには観葉植物やお花等を置き、壁には季節の暖簾や行事写真を飾る等、落ち着いて過ごして頂けるように工夫している。土や緑に触れる機会が持てるように、畑に草花、野菜を作り楽しんで頂く。	一部吹き抜け構造の建物で、リビングは一面が天井まで続くガラス窓となっており、ソファーに座りながら季節を感じ取ることができ、快適な空間となっている。利用者の方は昼食後、思い思いの場所であつろいでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場所にはソファーやテーブルがあり、一人でも多数でも利用できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の気持ちを大切に、好みを考慮した居室になっている。それぞれの特徴が活かされた居室となっている。	車椅子を使う利用者の居室の表札は見やすいようにドアの低い位置についており、職員の心配りが感じ取れた。居室にはテレビや利用者が作った折り紙、手芸品が馴染のタンスの上に飾られ、居心地の良さそうな居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして頂けるように配慮している。状況に応じて促しもしている。		